

西之内町地車新調実行委員会通信

昇魂式

「西之内町の

偉大な歴史となつた日」

令和四年十一月十三日、西之内町三代目

だんじりの昇魂式お別れ曳行が華やかに行われ、永年親しまれてきた西之内町の祭礼に大きな歴史の一ページが刻まれました。早朝からの行事でもあるにもかかわらず、だんじりの後ろを走る方や玄関先に出てだんじりを見る方、遠近各地より大勢の皆様にご参加いただきました。言葉に表す



昇魂式
歴代青年団団長 垂れ幕

2022年
11月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
0727-44447712



令和四年
三代目地車

このできない感謝の気持ちでいっぱいです。地車新調実行委員会一同ならびに町会をはじめとする各種団体に代わりまして、改めて御礼申し上げます。

前日には、午後六時より西之内町地車庫前にて前夜祭が行われ、ご参加いただいた皆さまも提灯に飾られただんじりに親しまれたかと思います。また、過去の祭礼映像が投影され、それぞれの時代で懐かしい顔ぶれもご覧いただけたかと思います。会館周囲には、祭礼のパレード時に披露された歴代の青年団団長の垂れ幕も多数飾られ、前夜祭から翌日の昇魂式お別れ曳行ま



昇魂式
前夜祭

での雰囲気を大いに盛り上げました。

昇魂式お別れ曳行では、最近の祭礼では通らなくなつた町内の道を曳行する第1部、下松駅周回コースから兵主神社までの第2部、そして、町内曳行を中心とした町内全員参加の第3部の曳行が行われました。第1部では、西之内町青少年会館前から関西電力変電所前という昭和五十年代の祭礼時に必ず入っていたコースを通りました。この時代の祭礼は非常におおらかで、年配の先輩談では、出発時間などにこだわることのできない感謝の気持ちでいっぱいです。地車新調実行委員会一同ならびに町会をはじめとする各種団体に代わりまして、改めて御礼申し上げます。

前日には、午後六時より西之内町地車庫前にて前夜祭が行われ、ご参加いただいた皆さまも提灯に飾られただんじりに親しまれたかと思います。また、過去の祭礼映像が投影され、それぞれの時代で懐かしい顔ぶれもご覧いただけたかと思います。会館周囲には、祭礼のパレード時に披露された歴代の青年団団長の垂れ幕も多数飾られ、前夜祭から翌日の昇魂式お別れ曳行ま

となく、町内の祭好きが集まり、昼でもお酒と共にだんじりを曳き、どこでも休憩と称し宴会をする祭礼だったそうです。だんじりも小屋に帰ることなく、そこかしこに放置されていたという話もあります。第2部は近年のメインとなつている曳行コースをとりました。町会館前を出发し、下松駅方面に向かいました。子どもたちも太鼓の音で体が目覚めたのか、最後の曳行となるので気合が入ったのか、通常よりもたくさん曳き手が集まり、勢いのある遣り回しで下松駅に向かって出発しました。下

松駅アンダー・パスではよく声が反響するのですが、この昇魂式では今まで聞いたことのない大きな声が響き、背中をゾクゾクとさせられたのは筆者だけではなかつたと思いります。駅ロータリーを回り、駅前を遣り回しで出るというコースも、平成初期には行われていたこともあり、お別れ曳行ならではといったものでした。

涙となり、空から雨が降つてきました。

兵主神社では、雨乞い神事が行われていたことは、ここで述べさせていただきました。

さみしいから降らせたのかと感じるも

したが、その時の雨は、涙で別れるのはさみしいから降らせたのかと感じるも

でした。

今回の昇魂式は、皆様の心にどのように映り、感じられたかと思うところです

が、多くの方々に笑顔と涙をいただきました。

そして、最後の宮入。無事に兵主神社拝殿前に据えることができ、安堵と寂しさでだんじりが滲んで見えたのは、筆者だけでないと思いま

す。

第3部町内の端から端までのお別れ曳行は、大盛り上がりの雰囲気

の中、過去の法被を着た往年の先輩

方も参加する最高の曳行となりました。この曳行では、幼児からお歳を召した先輩までが綱を持ち、だんじりと一緒に歩き、屋根にのり、前梃子を操る曳行でした。みんなが笑顔。警備をしている方々も笑顔。見ている町内の方も笑顔。遠方からの観客の方も笑顔。みんなが笑つての昇魂式お別れ曳行でした。

そして入庫。その笑顔がお別れの

根気のいる作業です。今後の進展にご期待ください。

新調地車の進捗報告

ゞ 台木 ゞ

11月に入り、植山工務店さんより

新調だんじりの台木の削り出しを行う

という連絡がありました。だんじりの

台木とは、だんじり本体の全荷重を駒

に伝える役目の重要な部材です。自動

車で申しますとシャーシの部分にあた

ります。その台木ですが、全荷重を支

えることのほかに、やり回しの際の横

方向の過重も受けける重要な部材でもあ

ります。だんじりの構造の中でも最も

強度のある木材が使用されておりま

す。

台木の削り出しは、大型の専用の機

械で木の反りを測りながら厚みをミリ

単位で測定し、調整しながら削り出します。

今回の台木加工は、立迫木材加工

工店さんで実施されました。台木は少

しづつ表面が削られ、その姿をあらわ

していきます。台木の製作は、反りの

癖が残るので組み立てまでに数回カッ

ナで削り出す作業が繰り返されます。

台木だけで約1t近い重量の木を1

ミリずつ調整し歪と反りをとる地道な



昭和十二年 新調時
三代目地車



台木加工作業

新調委員の独り言

昇魂式お別れ曳行も無事終わり今

年の行事も落ち着いたところです

が、新調委員会では次の段階に入っ

ております。

太鼓、装飾品が仕上がりつつあり、

今後は完成品の検収を行つていま

す。これから、一つ一つの部材が完

成し、地車という形になつていま

す。

植山工務店さんも昇魂式をご覧になり、更に新調だんじり製作に気持

ちが入られたとのこと。三代目同様

に愛着を持つていただけるだんじり

ができあがると期待しています。